

雲 遙

すべて筆先は蔵鋒で書きます

端 隔

楚

遙かに隔つ 楚雲の端

遠く楚の雲のかなたに隔てられている

(孟浩然の詩より)

鄭義下碑は、北魏時代の鄭道昭の書で、岩壁に刻した石碑である。うねりを帯びていて雄大で、円勢(丸みをおびた趣)に富んでいる。

④ 倣書とは、古法帖から感じられる結体、結構、性情をもとにして作品を作ること。